

経常利益

113 億円

経常利益は、資金利益の増加などから、前中間期に比べ5億円増加し、113億円となりました。

中間純利益

82 億円

中間純利益は、前中間期に比べ5億円増加し、82億円となりました。

総預金等
(平均残高)

6兆304 億円

※総預金+譲渡性預金

総貸出金
(平均残高)

4兆6,500 億円

自己資本比率
(国内基準)

12.27 %

経営の健全性を示す自己資本比率は国内基準を大きく上回っています。

不良債権比率

1.28 %

健全な資産を維持しています。

格付け

A (安定的)

格付投資情報センター (R&I)

経営の健全性や信用力が評価されています。

株主優待制度

当行では、日頃のご愛顧に感謝を込めて、株主さまのご優待制度を導入しています。

毎年3月末時点で1,000株以上を保有いただいている株主さまに、三重県ゆかりの名産品を掲載したギフトカタログを、毎年6月下旬に配当金関係書類とともにお送りしています。



●対象となる株主さま

毎年3月31日現在の当行株主名簿に記載された1,000株以上をお持ちの株主さま

●株主優待の内容

三重県ゆかりの名産品を掲載した「株主さまご優待ギフトカタログ」のなかから、保有株式数に応じてお好みの一品をお選びいただけます。

保有株式数	お選びいただける名産品
1,000株以上 5,000株未満	3,000円相当
5,000株以上	5,000円相当

株主総会資料の電子提供制度に関するお知らせ

会社法改正により、株主総会資料は原則ウェブサイトにて電子提供されます。

株式の状況

発行する株式の総数	396,000千株	上場証券取引所	東京・名古屋
発行済株式の総数	254,119千株	証券コード	8368
株主数	19,684名		

株式事務のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中に開催
基準日	定時株主総会議決権：毎年3月31日現在の株主さま 期末配当金：3月31日現在の株主さまに対し、株主総会の決議によりお支払いします。 中間配当金：中間配当を行う場合は、9月30日現在の株主さまに対しお支払いします。
公告方法	電子公告：当行ホームページ https://www.hyakugo.co.jp/ に掲示します。 ただし、電子公告ができない場合は日本経済新聞および伊勢新聞に掲載します。

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関：三菱UFJ信託銀行株式会社

お問い合わせ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)

編集 / 株式会社百五銀行 経営企画部

三重県津市丸之内31番21号
電話 059-223-2326
(本店所在地：三重県津市岩田21番27号)
2023年12月発行
<https://www.hyakugo.co.jp/>

HYAKUGO BANK
REPORT 2023

ミニディスクロージャー誌

2023年9月期 営業の中間ご報告

当行の概要 (2023年9月30日現在)

名称	株式会社百五銀行
創立	1878年(明治11年)11月19日
本店所在地	三重県津市岩田21番27号
代表者	取締役頭取 杉浦 雅和
資本金	200億円
従業員数	2,289名

Top Message



取締役頭取
杉浦雅和

平素は、百五銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当行は、これからもお客さまにさまざまな金融サービスをご提供することで、「真に頼りにされる銀行」となることをめざしてまいります。今後とも倍旧のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

さて、当行は昨年度より、長期ビジョンを「グリーン&コンサルバンクグループをめざして」へと刷新するとともに、中期経営計画「KAI-KAKU 150 2nd STAGE『未来へのとびらⅡ』～グリーン&コンサルバンクグループをめざして～」への取り組みをスタートしました。本中期経営計画の折り返しの時期を迎えましたが、皆さまからの厚いご支援のもと、順調に進捗しております。引き続き、お客さまとの対話を通じた「質の高いコンサルティングの提供」や「気候変動リスクへの対応」について積極的に取り組むことで、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

経済環境は厳しさを増しておりますが、地域の皆さまとともに発展していくために、グループの総力を挙げ、全役職員が一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申しあげます。

2023年12月

中期経営計画 2022年4月～2025年3月

KAI-KAKU150 2nd STAGE「未来へのとびらⅡ」

～グリーン&コンサルバンクグループをめざして～

本中期経営計画では、5つの基本方針「カーボンニュートラルへの取組みの強化」「ビジネスモデルの強化」「生産性の向上」「経営基盤の強化」「SDGs/ESGの浸透」への取組みを通じて、お客さまの課題解決への支援を行うとともに、地域のカーボンニュートラル実現に向けた取組みを推進することで、お客さまと地域社会の未来を切り拓きます。

項目	2023年9月期 (実績)	2024年度 目標	
KGI	連結当期(中間)純利益	83億円	150億円以上
	連結純資産ROE	4.06%	3.50%以上 ※長期的に5%をめざす
	コアOHR	61.15%	67%未満
	自己資本比率	12.27%	11%以上

105 TOPICS

Topic 1 観光まちづくりへの取組み

～NOTE伊賀上野へのリノベーション投資～

2023年2月、当行は一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO機構)とアセットリノベーションファンドへ出資し、本ファンドから株式会社NOTE伊賀上野への投資が決定されました。

伊賀上野城下町には歴史的、文化的に多くの歴史的建造物(古民家)がありますが、近年、人口減少により空き家が増加し放置されています。このような課題を解決するため、株式会社NOTE伊賀上野は古民家をリノベーションし、宿泊施設として再生させる事業を行っています。

こうしたNOTE伊賀上野のさらなる観光まちづくりに対し、当行、伊賀市、MINTO機構、日本政策金融公庫などととも、官民連携の金融支援体制を構築し、2023年4月には「歴史的資源を活用した観光まちづくり」の官民連携支援のキックオフセレモニーを行いました。

当行は今後も本ファンドを通じ、伊賀市の活性化に向けた取組みに対し支援するとともに、地域社会・経済の持続的な成長に貢献していきます。



Topic 2 金融経済教育への取組み

～金融リテラシー向上へのサポート～

2022年に高等学校の金融経済教育が必修化され、教育委員会や教職員からのサポート依頼が増加しています。当行グループでは平成14(2002)年から金融経済教育の取組みを継続しており、力を入れている分野です。

今後も三重県のリーディングバンクとして、次世代を担う若者への金融経済教育を積極的に展開していきます。



●おもな金融経済教育開催一覧(2023年4月～10月)開催回数13回

形態	対象	人数	テーマ
体験学習	小学校(春田小学校ほか)	17名	銀行の仕事
	中学校(亀山中学校・中部中学校・朝陽中学校)	4名	
出前授業	高校(四日市工業高校・鳥羽商船高等専門学校・名張高校・津西高校・伊勢高校)	396名	資産運用入門セミナー、金融リテラシー講座、ライフプラン講座など
	大学(皇学館大学)	60名	
	一般(五十鈴塾ほか)	47名	

Topic 3 環境保全への取組み

～「緑の募金」で林野庁長官から感謝状贈呈～

2023年9月、当行は、森林づくりなどに活用される「緑の募金*」への長年の取組みが評価され、林野庁長官から感謝状が贈呈されました。

百五銀行グループでは、環境保全の一環として2005年度に従業員有志が「緑の募金」に協力し寄付を開始、最近では2020年度から3年間で総額165万円の寄付を行いました。

当行では今後も地球温暖化防止につながる森林づくり推進のための活動に貢献していきます。

※緑の募金
緑の羽根募金として親しまれていた緑化募金は、1995年に法律が制定され、「緑の募金」として生まれかわりました。寄せられた募金は、森林・緑づくり、森林ボランティア活動、青少年の環境教育などに使用されています。

